

# コラムのピット

CHISATO HAMANO  
MIRAI HINO  
SU-NAKA

## 濱野智紗都

京都府出身。物心ついた頃から夢はボートレーサー。京都東映にて時代劇を中心に子役をしていたことも。99期の養成所試験に一発合格したが、ケガで無念の途中退所。その後、ピットリポーターやインタビュアーとしてボートの世界に飛び込んだ。将来の夢は小料理屋の女将になること。

## ちいちゃん ピットこぼれ話



丸亀オールスターで会った馬場選手は、やっぱり苦しそうでした。馬場選手は地元が同じということもあり、世間話やお互いの子供の成長の話など言葉を交わす機会が多くて、私の中ではピット内の「オアシス」のような存在。そんな馬場選手からネガティブな言葉ばかりが出てくる…。近況、苦戦していることはファンの方もご存知

だと思いが「何をやっても上手くいかない。できていたことができなくなっている」とも。モーターに左右されるとは言え、生命線である出足が付かないことが大きな要因であり、前のようなターンができない。18年に初出場したグランプリはここ4年連続出場。「グランプリに出られるようになってから、挑戦すればするほどその壁の厚さを感じて、1月1日になったら賞金がゼロになる。ここが特にしんどい。あと何回挑戦できるかと考えたりすると、正直気持ちが悪く吐露してくれました。「もう選手を辞めたい！」なんて思うこともあるとか。そんな話をしていた時に来たのが毒島選手。オールスターの時に切ってしまったF。それがもう1本増えるなんて、この時は想像もなかったけれど…。「支えになっているレーサーは毒島さん。同い年だけど、本当に尊敬する人。



連絡もよく取って意見交換したり、なんでも話せる相手。選手とプライベートで遊びに行くことはほとんどないけど、今度初めて釣りに行く約束をした。毒島さんもキツイ経験をしているからこそ、いつも励ましてもらっている」。もちろん相思相愛。これまでも幾度となくピンチをくぐり抜けてきたから今の強さがあるおふたり。今置かれた「窮地」を再び乗り越え、さらに強くなってくれるって私は思っています。



## 日野未来

大分県出身。元・日本競輪選手会奈良支部所属。福岡を中心としたアイドルグループ「HR」を卒業後、グラビアアイドル、タレントとして活動。ギャンブル好きが語って競輪選手を目指し、2018年にデビュー。21年岐阜で初優勝。24年は年間V9をマークした。25年5月に地方競馬の馬主資格を取得。同6月に現役引退。愛称は「みーちゃん」。

## 仕事も趣味も ギャンブル 三昧

先日、競輪選手を引退しました。現役生活7年、思えば競輪選手を目指した時はまだグラビアアイドル。そこから予想のお仕事で競輪にどハマリして選手を目指し、合格したのが今思えば夢見たいな一瞬だったなあとしみじみ思います。大好きな公営競技を楽しみながら、トレーニングするのはとってもキツかったです。私は本場で観戦するのが好きだし払い戻し金を現ナマで払い戻したいので全国の場に通ってました(笑)。



グで運ぶのが一番キツかった！それでもいろんな場所でトレーニングを助けてくれた周りの環境や、見守ってくれたファンの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。引退発表をした後は「最後のレースを見に行きたかった」とてもたくさんいただきました。1年間オプシオンなく公営競技の選手はレースを走ります。「推しは推せる時に推せ！」という言葉をよく聞きますよね？もし今応援している選手がいたら、応援できる日にたくさん目に焼き付けて応援してほしいなっています。

事故とも隣り合わせです。私もバンクの中から見た応援してくれているファンの顔や声、景色を一生忘れることはありません。だからみんなも私が走ったレースの姿をずーっと覚えてくれてたらうれしいな。書きながら泣いちゃいます。みなさん本当に7年間ありがとうございました！これからは公営競技大好きフリータレントになりますので、仕事の依頼がありましたら、ぜひマクールまで(笑)。



## すーなか

## 今月も どうも すいません

## すーなか

大阪府出身。吉本興業で2001年デビュー。芸歴22年目のお笑い芸人。芸人界きってのボートレース通。戸田、桐生を中心に数々のボートレース番組に出演中。



ト業界と寄り添って行くことと思います！ツネさん、ありがとうございます！

ボート界のフリー素材

先日、普段お世話になってるボートレース宮島専属記者(通称ツネさん)が僕のことを、自身のコラムに取り上げてくれました。その見出しの言葉は「ボートレース界のフリー素材」。僕の人生、数々のキャッチフレーズ(あだ名)を付けられましたが一番しっくりきたし、方向性が見えた気がしました。

過去を振り返ると、小学生の時は明るく活発だったが、何事も1番にも2番にもなれなかったので、「もうちょっと中須」からの「もうちょ」と呼ばれていた。認めたくない微妙なあだ名。中学生になるとニキビだらけになり、これぞ定番「昼に見える月」からの「昼月」。これは初耳で説明しなくてはなので面倒くさかった。高校生になると、野球で声を出しすぎて喉を潰してしまい「ガラゴエガリレイ」。これは2人くらいしか言わない、面白くもない流行りもないあだ名でした。芸人になってから某番組に出た時は「お笑い界の孫悟空」という意味不明なキャッチフレーズを付けられました。振り返ると口くわな物はありませんでした。

今回ツネさんにこれを見せてもらった時、まさにこれだと思ってたんです。これと言った飛び抜けたものはないけど、何でもやるし、どこでも行くボート人間ってあんまりないかもって(笑)。

せっかくだいたいだいたこのキャッチフレーズを道標に、今後もボート業界と寄り添って行くことと思います！